

●7月19日(水)

9時00分～10時30分 日本人ゲストからの講演

10時45分～12時00分 現地高校生との交流プログラム

14時45分～16時15分 研究者(教育者)による高校生向け「サイエンステーマ」ワークショップ

朝8時40分(集合時間は8時50分)、ファミリー宅からの通学二日目ながら、昨日の失敗を改善、よりベターな方法や経路をファミリーやメンター学生に確認しながら、全員が余裕と自信をもって指定場所「Kendall 駅」に集合しました。ファミリー宅での苦戦(食事、シャワー利用、洗濯、その他諸々のルール、そしてもちろん英会話)はありながらも、それも楽しそうに話し合っている姿が印象的でした。皆、本日も元気に取り組んでいます。

本日午前は、「現地(ボストン)で活躍する日本人ビジネスパーソン」による講演会、ゲストに「サリバン 早絵 氏」をお迎えし、90分の講演および懇談の時間をいただきました。学生時分はミャンマーでのボランティア短期滞在を経験、そこでの経験と当時の自身の大学生活(疑問も感じ・・・)、将来への思いなどから一念発起し大学を退学してカナダ(トロント)での語学留学へ。その後カナダの大学を卒業し、世界的スポーツシューズブランドに就職、現在はやはり世界トップ音響ブランドでマーケティング戦略を担当。“世界で戦えるマーケターとなる”を目標(公言し)に挑戦し続け、まさにいまその分野で活躍されています。一方で、podcast にて次世代へのグローバル教育、海外チャレンジをサポートするメンターシッププログラムも主催するなど、自ら道を切り拓き、レールを敷きさらに進み続けているまさに「グローバルパーソン」です。そのようなサリバン氏ですので、まだまだやりたいことがあり、すでに次の目標に対して挑戦を続けています。学びと成長にリミットを設けず、走り続けている氏からの強いことばと熱いメッセージ、オーラのようにきらきら輝く彼女の雰囲気と眼差しに、講演冒頭から生徒たちも惹きつけられていました。

13年間海外での挑戦をし続けていても、未だに「日々の仕事、日々のステップでも常に挑戦がある(成長しなければならない)」ということばから、強烈な向上心とともに、多くの困難と苦労を自らの力で超えてきたからこそ歩みを止めない彼女の強さ、オーラの理由がわかったような気がしました。何かを達成してもさらに次のレベルを見据え、そこに達するために何をすべきかを考え、やりたいことが見つければ、「すべきことを全力でする」、「(夢や目標を)見つけたければ、関心あることに全力で挑戦してみる」、本研修を通過点に大きく成長していくであろう生徒たちへすばらしい提言と時間をいただきました。生徒からの質問(時間の都合で6人)ののち、あっという間の講演は終了となりました。

気持ちの高揚おさまらないなか、その後に現地高校生との交流プログラムが実施されました。地域の複数高校から、日本人高校生との交流、日本文化に関心のある生徒たち5人を(ボランティアにて)招聘、相互理解の機会、交流をともに楽しみました。互いの自己紹介から始まり、早口言葉、日常的に友人間で利用する汎用語(若い世代)について、使用する状況含めてのシェア、折り紙やゲームなどのアクティビティを楽しんだ1時間は、同世代の距離を縮め、理解を深めるには十分であったようです。一週間の研修中は、大学生、または大学院生、研究者やビジネスマン、コーディネーターなど、年上との関わりが多いなかで、つかの間ではありましたが、やはり同世代だからこそすぐに文化や言語の壁はなくなり、普段の生き活きとした笑顔で交流を楽しみました。

本日最後のアクティビティでは、「サイエンス(エンジニアリング)」をテーマにした高校生向けのワークショップが行われました。ボストンのあるマサチューセッツ州の中高一貫教育部門から派遣された専任講師(サイエンティスト)2名の指導により、浮力や揚力について、実際に模型の船やヘリコプターのプロペラ、紙飛行機を作成し、それぞれの滞空時間や模型船の耐荷重などについて、グループ間で競い合い、楽しみながらの学びの機会となりました。尚、このアクティビティだけでなく、ランチの時間から学生メンター5名(マサチューセッツ州立大学2名、過去に上智大で学び現在はスペ

インで学ぶ学生1名、ボストン大学2名)も参加してくれており、ディスカッションベース・プログラム以外でも多くの時間を生徒たちのために費やし、献身的にサポートをしてくれています。

以上、現地4日目の報告とさせていただきます。



